



平成29年度こども宅食の利用者に関する調査報告

2018年4月24日

本日の報告内容は以下の3点。

1

実施した調査の概要

2

調査結果からわかったこと

3

今後の展開について

実施した調査の概要

何のために、どうやって調査をしたのか？

調査の目的は「対象家庭の実態把握」と「施策の効果測定」。

対象家庭の実態把握

生活課題、ニーズの把握
高リスク家庭の探索

施策の効果測定

施策としての妥当性検証
打ち手の継続的改善

本日は、「対象家庭の実態把握」について報告します。

対象家庭の実態把握

生活課題、ニーズの把握
高リスク家庭の探索

施策の効果測定

施策としての妥当性検証
打ち手の継続的改善

調査の概要は以下の通り。

調査対象

児童扶養手当、就学援助の受給世帯のうち、

配送世帯150世帯（利用者）、**落選世帯81世帯**（対照群（未利用者））

※申込458世帯のうち、抽選で150世帯に配送

実施時期

1回目 2017年10月、2回目 2018年3月

※配送実績 2017年10月、12月、2018年2月

調査手法

世帯、子ども、保護者のことなど

6点31問で構成されるアンケートへの回答を依頼。

※2回目については、配送による各家庭起での変化をとらえるために11問を追加

回答率

配送世帯150世帯 **1回目 85.3%** **2回目 73.8%**

落選世帯81世帯 **1回目 91.4%** **2回目 77.8%**

調査結果からわかったこと

こども宅食の利用者とはどのような人か？

利用者にどのような変化をもたらしたのか？

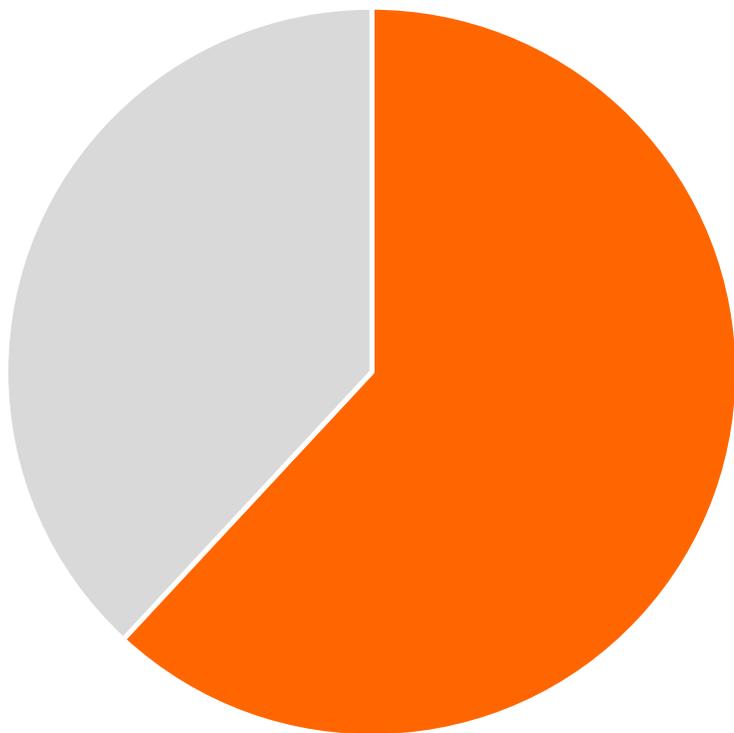
こども宅食の利用者とはどのような人か？

半数以上はひとり親世帯。

様々な世帯が存在し、異なる生活課題を抱えている。

病気・病歴世帯は課題を抱えている可能性が高い。

半数以上はひとり親世帯。



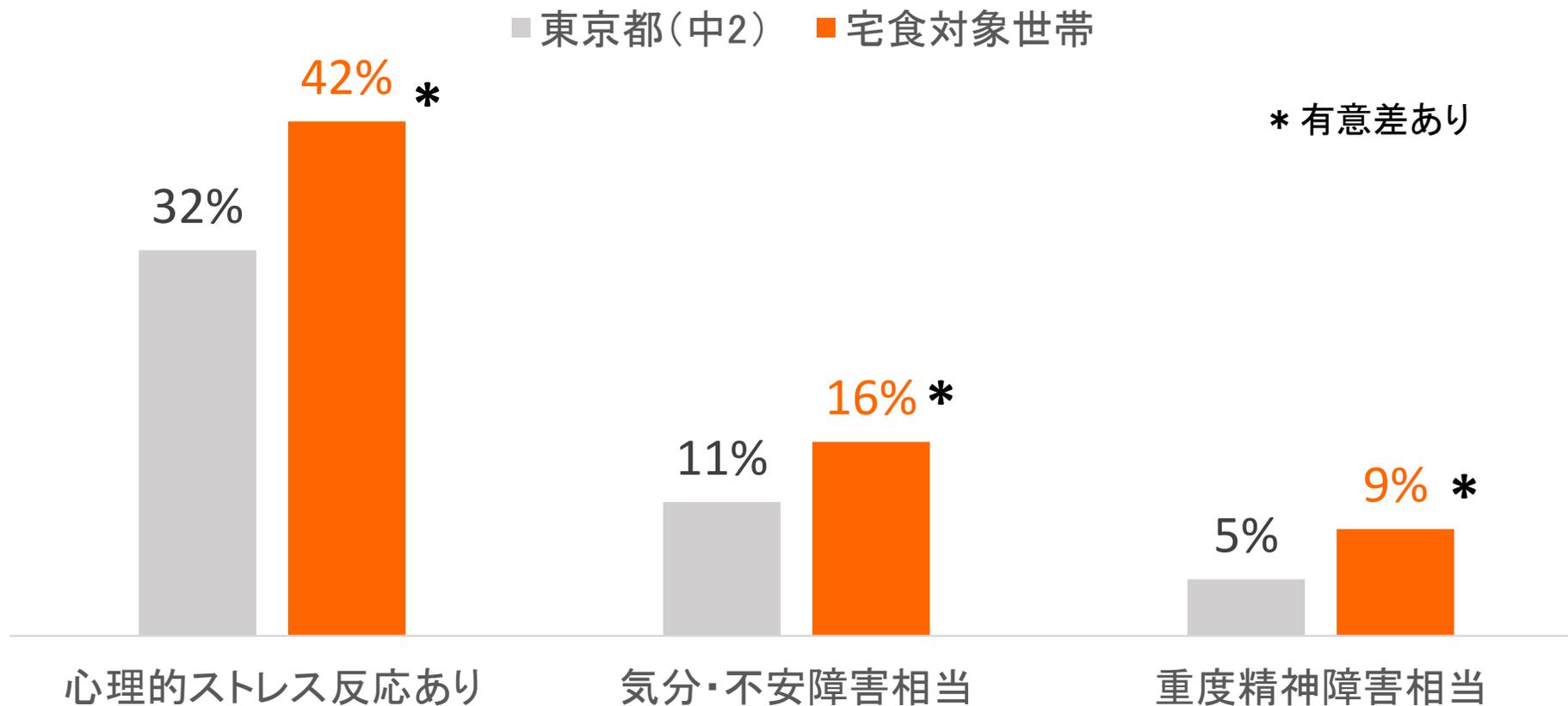
ひとり親家庭の占める割合

(n=128)

62%

※宅食対象世帯は、児童扶養手当、就学援助の受給世帯

東京都の調査と比べ、保護者の精神的な負荷が高い。



※東京都のデータについては、首都大学東京人文社会学部阿部彩教授よりご提供頂きました。

※「東京都(中2)」は東京都の4自治体における中学2年生の保護者を対象した調査結果の数値になります。

対象世帯は特徴別にセグメントに分けることができる。

回答者の自由記述内容をもとに対象者を以下のセグメントに分類し、それぞれの特徴を分析した。

ひとり親世帯	79 世帯	親が一人で子育てをしている
三世代同居世帯	29 世帯	祖父母と同居している
多子世帯	24 世帯	3人以上の子どもと同居している
病気・病歴世帯	16 世帯	親子の一方、または両方に病気・病歴がある

※セグメントは重複を含む

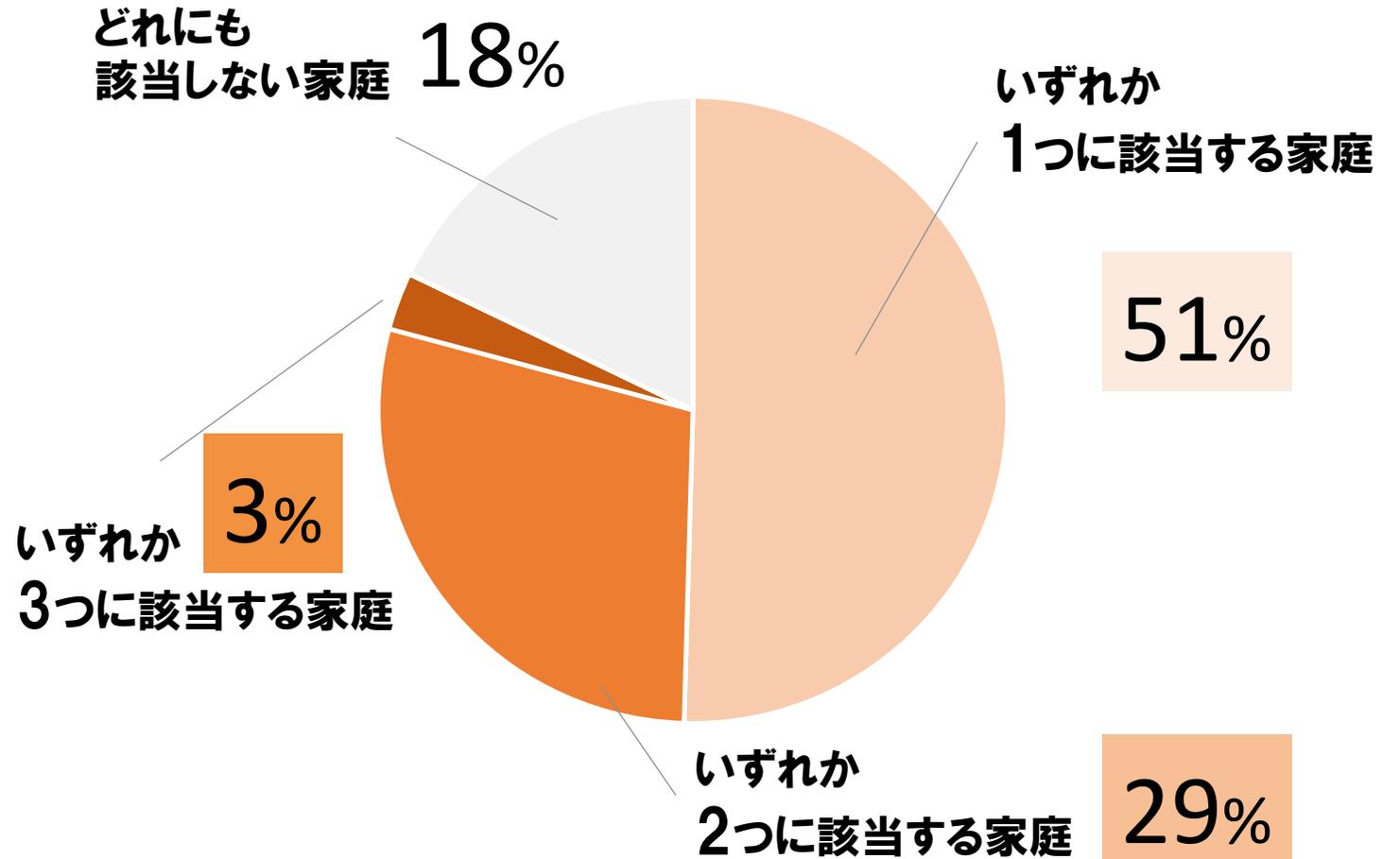
全体の8割がいずれかのセグメントに属しており、
3割が2つ以上のセグメントを重複している。

ひとり親世帯(79)

三世代同居世帯(29)

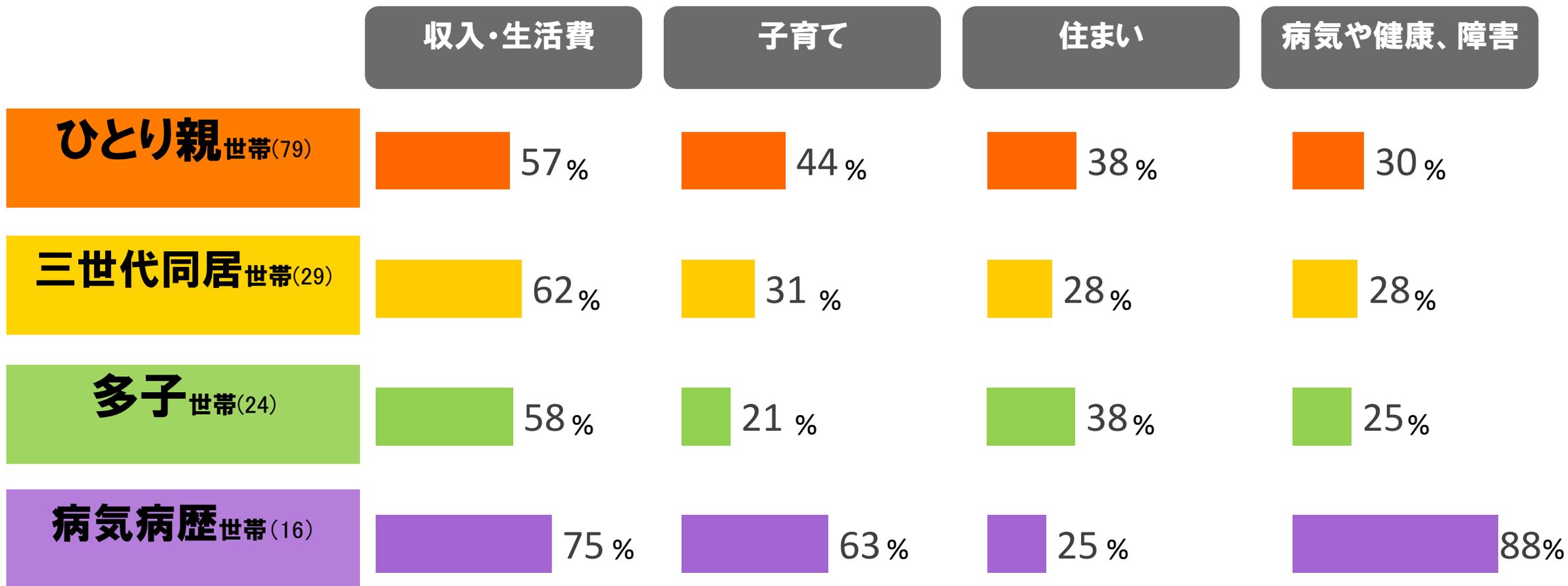
多子世帯(24)

病気・病歴世帯(16)



各家庭によって生活課題の捉え方は異なる。

生活や子育ての中、お困りのことはありますか。(各家庭の選択率)



【セグメント別】対象家庭の声

ひとり親

世帯
(79)

母子なので私が病気になったら子どもはどうなるのか。

今の仕事の契約が切れたら**子供が小さくても働ける仕事が見つかるか。**

離婚した父親からの手紙などで、**子どもたちが不安定な精神状態になってしまう。**
(不誠実な内容によって)。反抗期や多感な年頃なので、難しい。

毎日、勉強を教えているが、**毎日、自分がクタクタで家の仕事がたまる**
(塾に通わせる余裕がないので)

教育費や固定費以外で節約できるのは自分(親)にかけるお金かな、と思い、
夕食は子どもの分だけ作ったりしている。

三世代同居

世帯
(29)

今はまだ自分も健康なのですが、両親が近くにいて子育ての助けもしてくれていますが、
年もとっているのでこれからの子育てと介護が同時に来ることを考えると、少し不安があります。

【セグメント別】対象家庭の声

多子

世帯
(24)

3人目はまだ保育園に入れず、一時保育などに預けて働いていますが、**お金は高く家計のマイナスに。なかなか仕事にも出勤できず。**

夫も私(妻)も不安定な仕事の仕方なので、収入が途切れることが数年に何度かあるため、**生活費や教育費がとても心配。**

現在、社宅に住んでいますが、とても古く、狭いため子どもたちが大きくなったときどうしたらいいのか。古い家の為、子ども達にアレルギー発症があり心配。**でもお金が無いので引越せない。**

うつ病で治療中。

フリーのライターとして働いているが、仕事を思うようにこなせない為、収入に不安がある

昨年入院を2ヶ月半した。

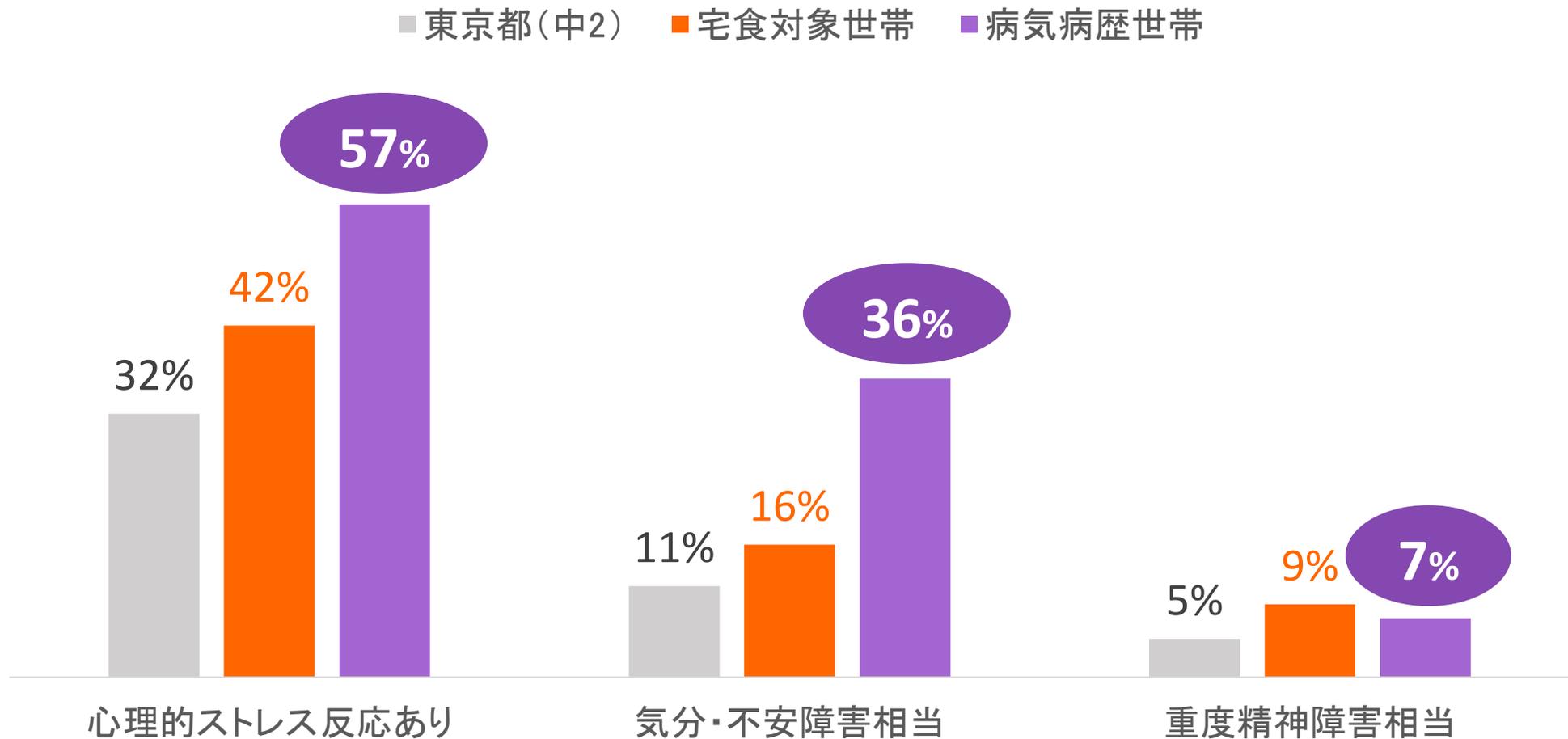
子どもは児童養護施設に預けるしかなく、学校の勉強が遅れてしまった。
保証人は高齢の親に遠くから来てもらったが、来る最中に親も心配と疲れで救急車で運ばれてしまった。

持病が3~4つ。体力がないため週3日勤務のみ。都営住宅に5年申し込んでいるが当選せず

病気病歴

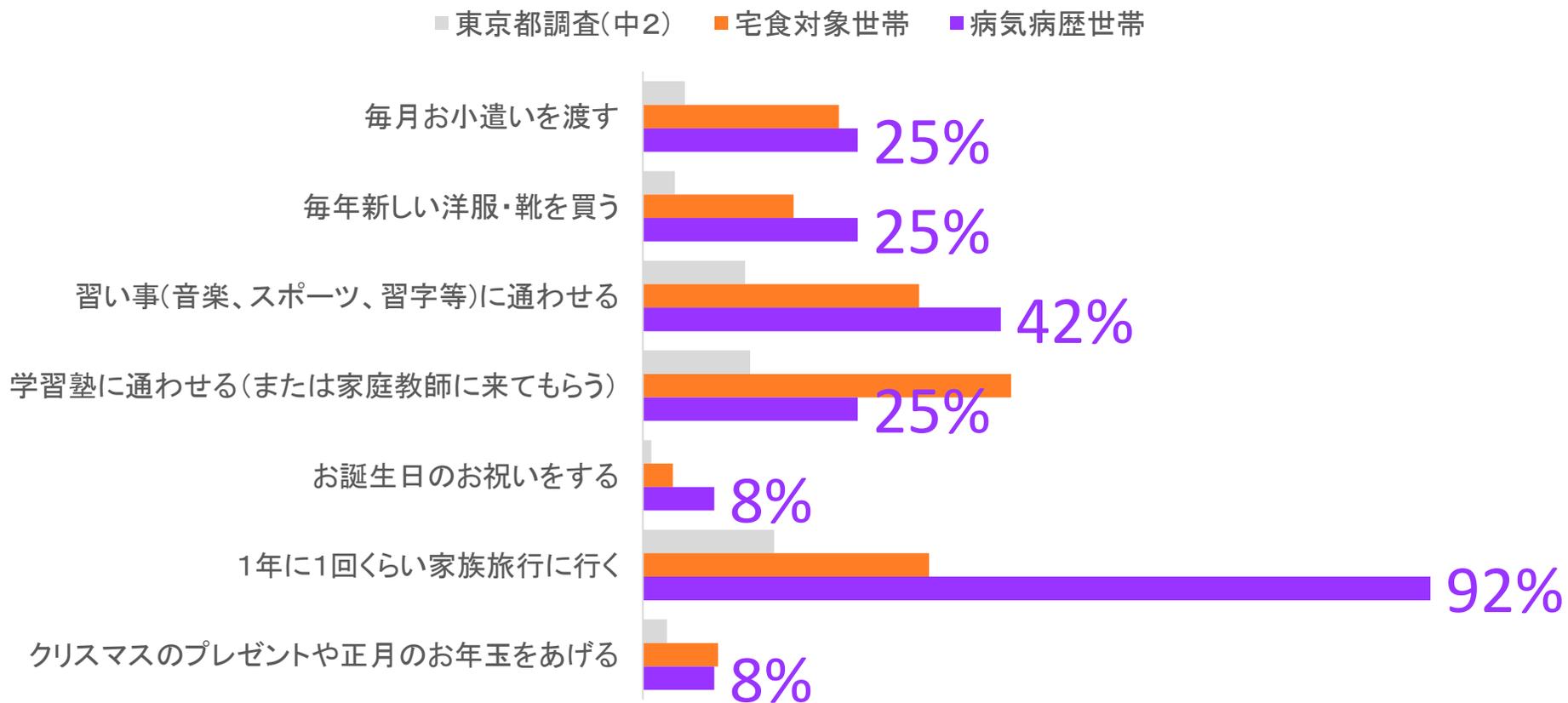
世帯
(16)

病気・病歴世帯は特に精神的負荷が高い可能性がある。 (対象世帯数が少なく、現状は仮説の域を出ない)



東京都、宅食の対象世帯よりも 「経済的にできない」ことが多い傾向が見られた。

あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。（「経済的にできない」を選択した人の割合）



利用者にどのような変化をもたらしたのか？

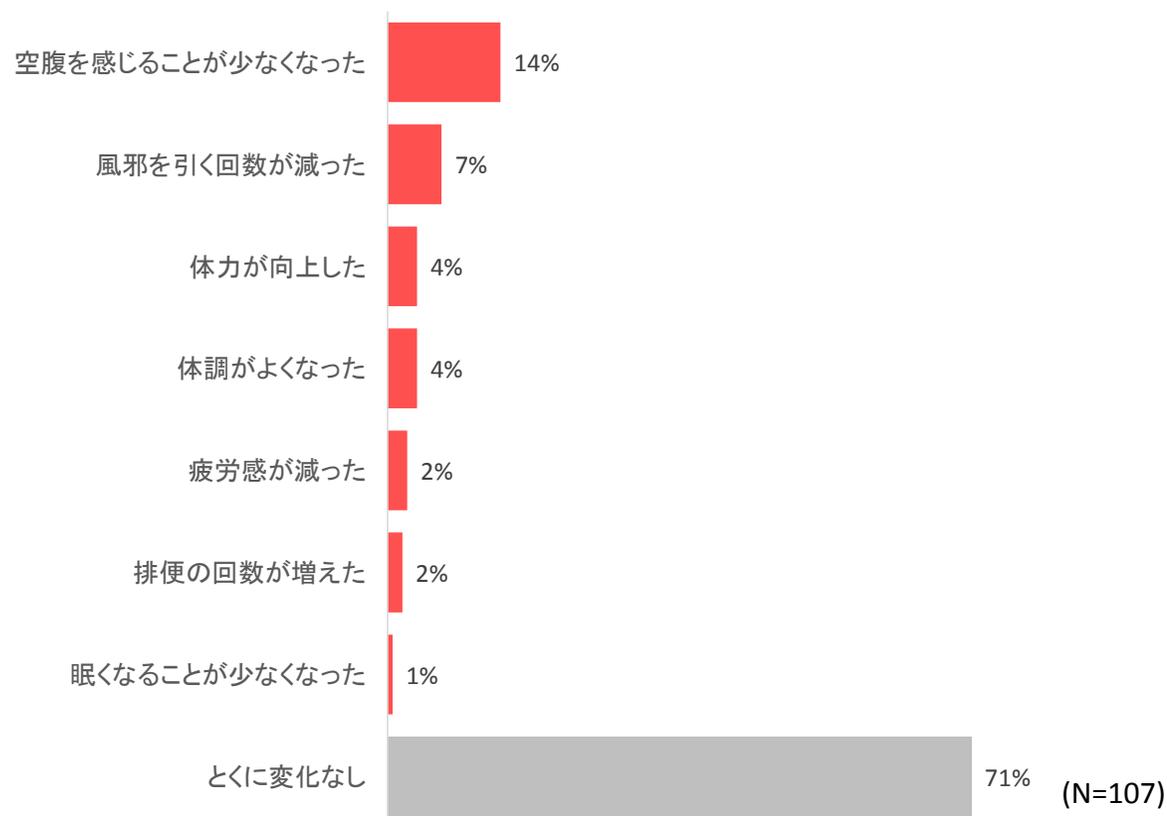
健康面への影響は限定的だった。

**金銭面では約3,700円の節約。
それでもできるようになったことはある。**

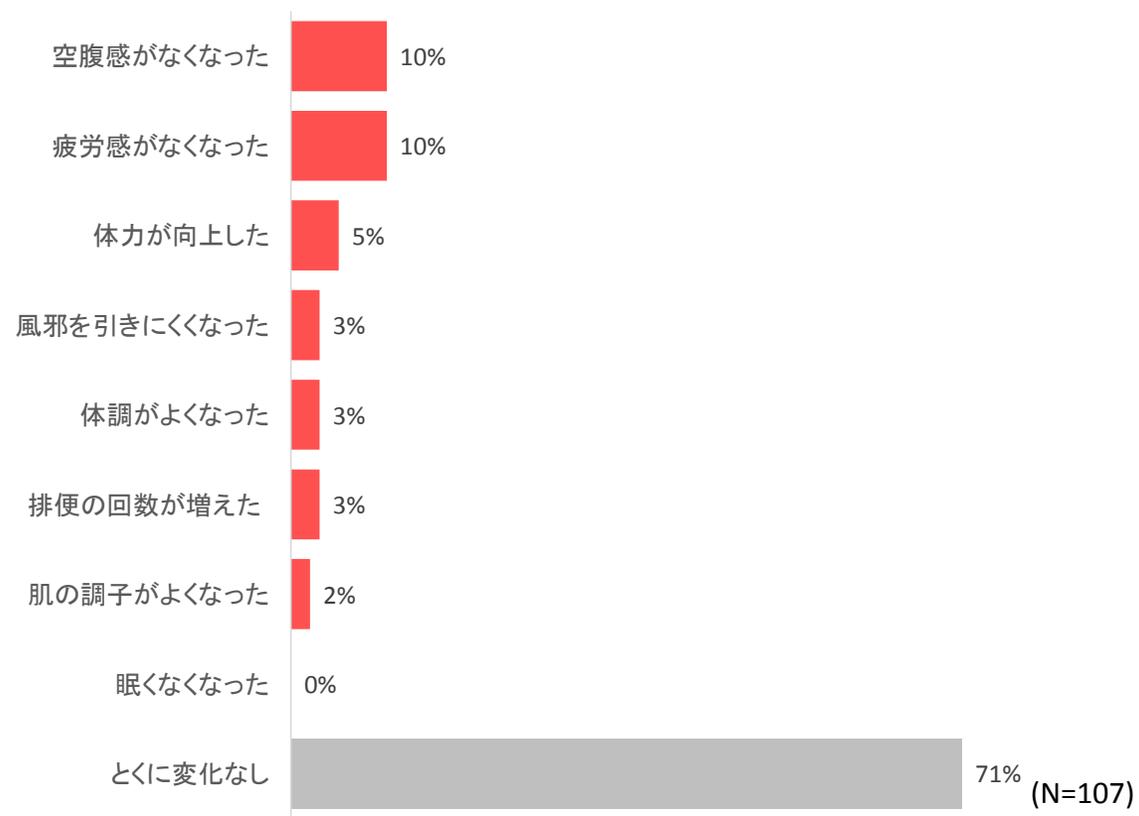
配送を通じて安心感、充足感を感じている。

健康面への影響は限定的だった。

こども宅食の利用前と比較して、
お子さんの健康状態に変化はありましたか。



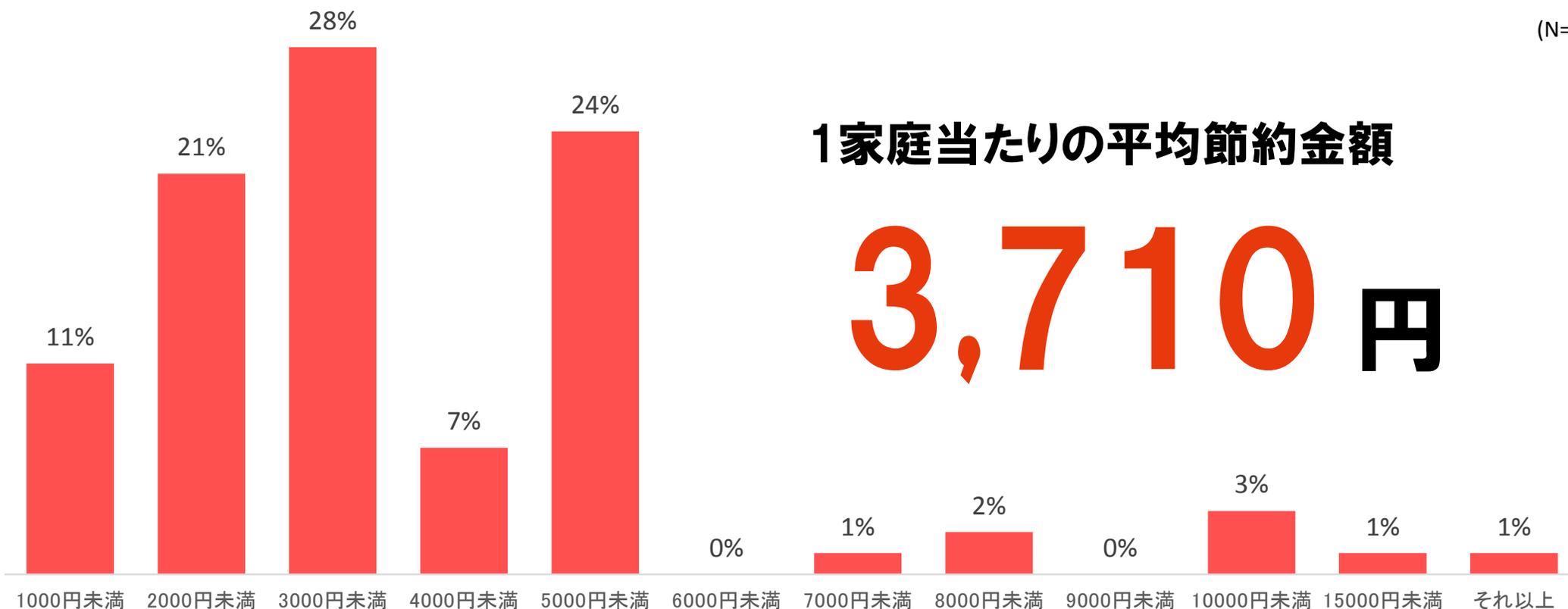
こども宅食の利用前と比較して、
あなたの健康状態に変化はありましたか。



金銭面では約3,700円の節約。

こども宅食の利用前と比較して、**一か月に節約できた金額**(食費や買い物に行く交通費など)を教えてください

(N=89)

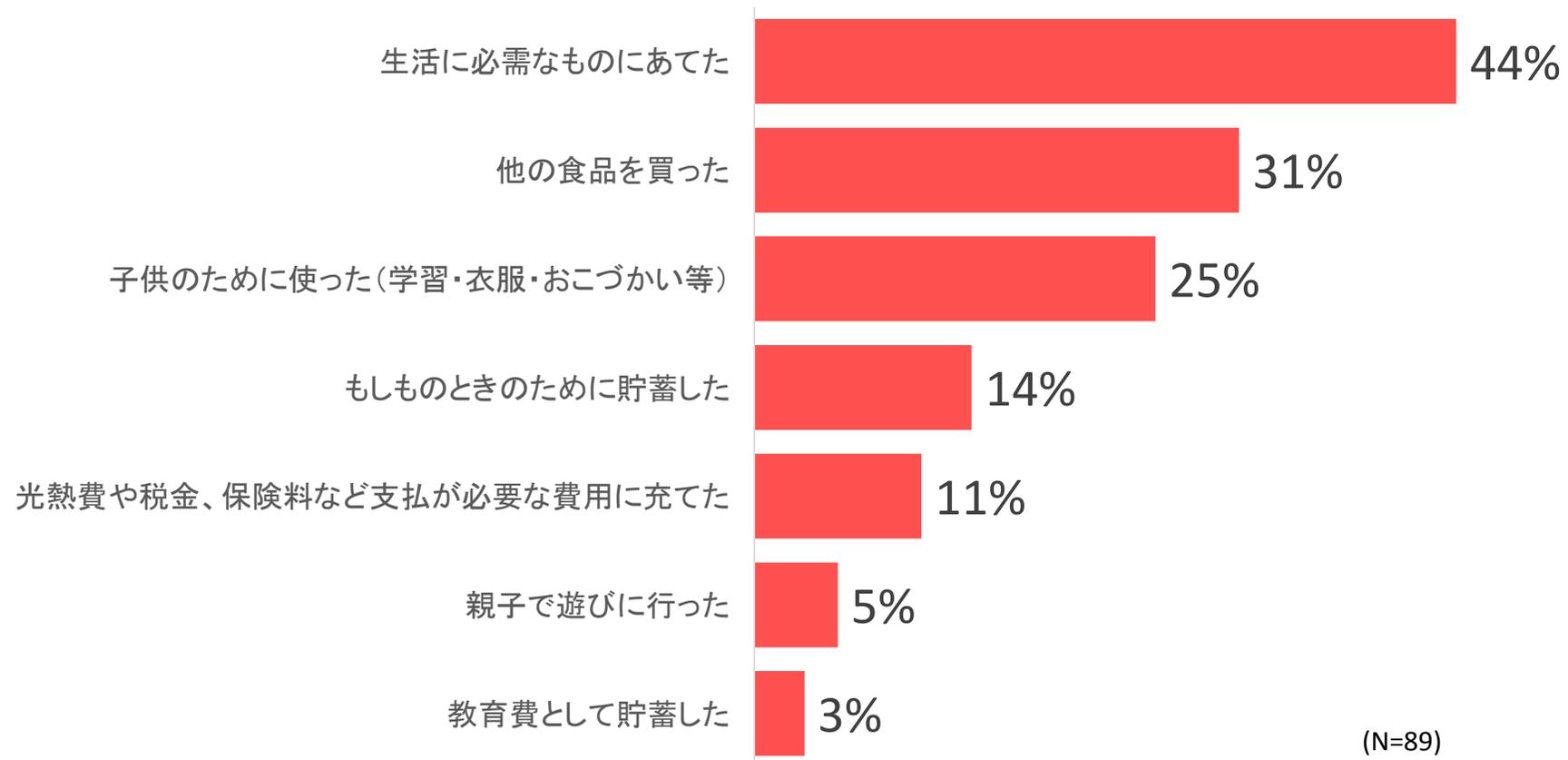


1家庭当たりの平均節約金額

3,710 円

無駄遣いはせず、生活必需品や子どものために使っている。

節約したお金でどのようなことができましたか。



節約できた金額は多くはないが、できるようになったことはある。

おやつや夕食を我慢させることが以前はあったが、今は少しだけできるようになった。

親と子で靴や服を共有していたが、サイズに合うものを購入した。
(上履きなど小さいものをはいていた)

柄のかわいいノートや、流行の服を購入して笑顔が増え、学習意欲が増した。

いつも支払がぎりぎりなので、たすかりました。

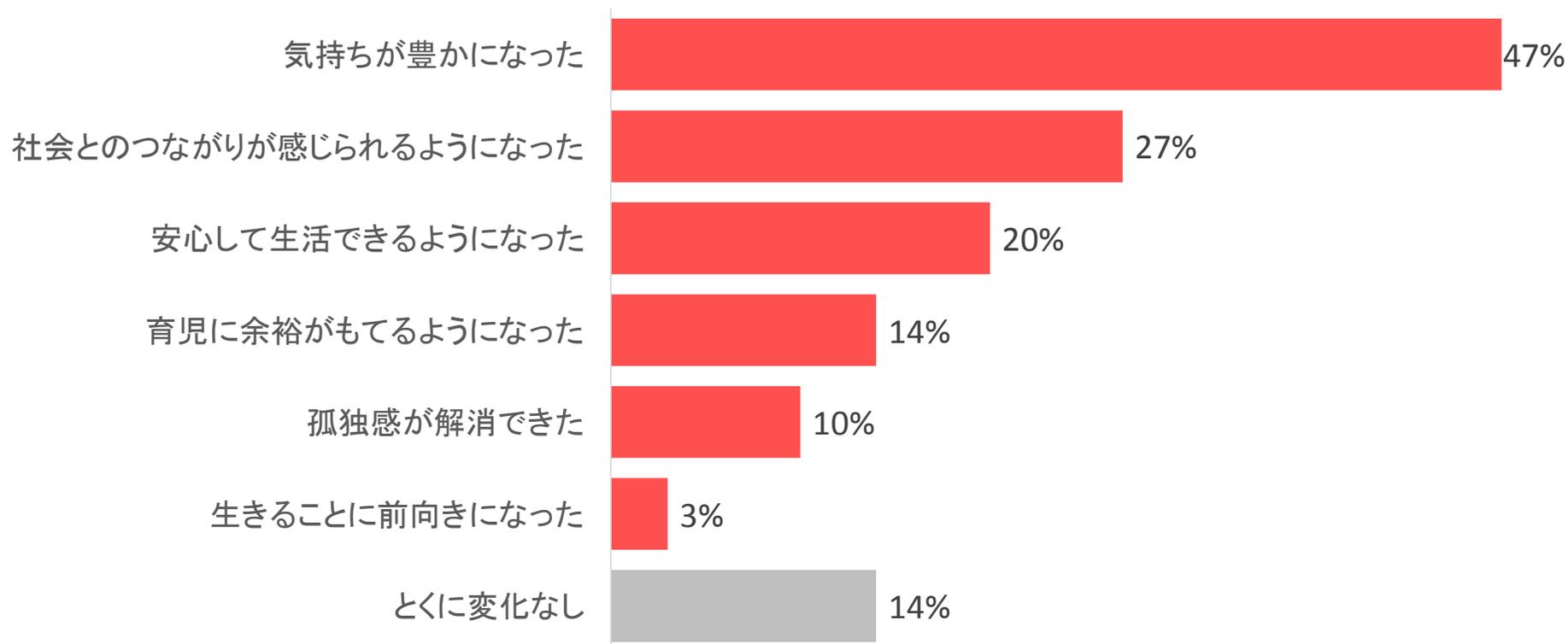
高校受験の年だったので塾の冬期講習に申し込んだ。

出かけられるようになりました。笑顔が増えました。

費用の問題でなく買いに行く時間がなく米のない日が続くことが度々あるので助かった。
また、嗜好品は買わないことが多いので、子供たちが喜んでいる姿が嬉しかった。

配送を通じて、安心感、充足感を感じている。

こども宅食の支援を受ける前と比較して、あなたの気持ちの変化はありましたか。(複数選択)



アンケートを通じたコミュニケーションを活用することで、
支援が必要な世帯とつながることができた。

配送世帯**150**世帯(利用者)、落選世帯**81**世帯(対照群(未利用者))のうち

今回のアンケートで
「DVがある」と回答した家庭は

7 件 (3 %)

今後の展開について

今回の結果をどのように活かしていくのか？

今回の調査結果から得られた示唆は以下の通り。



貧困「層」として括ることはできない。
多様な家庭、課題に応じた**個別的な対応**が必要。



病気、病歴世帯は生活課題を強く感じている、抑うつ度が高い、といった傾向が見られ、**重篤化するリスクが高い**と考えられる。



配送を通じてつながることは、
対象家庭に**精神的な充足や安心感**をもたらす。



アンケートを含めたコミュニケーションを続けていくことで、
重篤化リスクの高い家庭を把握し、予防につながる可能性がある。

平成30年度からの配送増とともに、以下3点を推進していく。

A

アンケートの**リスク評価能力**の強化

B

世帯の特徴、ニーズを踏まえた**最適なケア**の提供

C

対照群(未利用者)との比較を含む**精緻な効果検証**

本事業は日本財団の助成を受けています。

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION